

中国海軍の台湾海峡東岸での活動活発化

漢和防務評論 20140124（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

中国海軍潜水艦の台湾海峡東岸での活動が活発化しているとする漢和の記事を紹介します。

記事では、台湾海軍消息筋によると、中国海軍は新鋭の潜水艦を海峡北東部、尖閣諸島近海に頻繁に派遣しているとのことですが、同消息筋は、近海に中国潜水艦が活動していることは政治的理由により一般に公表しないと述べています。

しかし漢和の記事に出たということは、公表したも同じです。台湾海軍の消息筋は、中国潜水艦が 300 乃至 400 メートルまで潜航していると述べていますが、漢和は疑問としています。中国国産の潜水艦は信頼性に問題があり、中国海軍は設計通りの深度に潜航することを躊躇うとの記事もありました。

KDR 平可夫台北報道：

台湾海軍の消息筋は、台湾海峡東岸北部における中国海軍潜水艦の活動が最近一年間、相当頻繁になったと述べた。「彼らは 1990 年代から活動していたが、現在活動がますます活発になり、しかも大部分が最近就役した新鋭潜水艦である」と述べた。

この情報は、第三国である某国の海軍からも確認がとれている。消息筋は、「中国は、最近確かに台湾海峡東北部すなわち日本の離島に近接した海域において、”元”級潜水艦を活動させる回数を増やしている。台湾海軍は依然探知する能力がある」と述べた。

台湾海軍消息筋は、「確かに我々は、この海域で中国海軍潜水艦の活動を何度も探知した。しかし我々は、この情報を公開しない。その主な理由は、政治的理由であり、我々は台湾民衆をパニックに入れたくないからだ」と述べた。

また「我々は、中国海軍が台湾とフィリピンの間の海峡に固定式ソナーを設置したのを知っている。これは、明らかに台湾海峡南部における台湾海軍を監視、及び米国海軍の活動を監視するためである。同様に、我々は活動する中国潜水艦の類型も知っているが公開はしない。中国潜水艦の音源はスクリュウから出る気泡である」と述べた。

「台湾海峡東岸における中国潜水艦の活動は、中国海軍が将来この海域に空母を出動させる計画があることと関係がある」と消息筋は述べた。

KDR は、中国海軍が台湾海峡東岸、特に東北岸海域で活動を活発化させている理由を次のように考える。

第 1 は、台湾東部の空軍基地、特に佳山の地下格納庫の監視活動の強化である。中国の軍事工業が現在潜水艦発射対地攻撃ミサイルを開発中であることから、戦時には中国潜水艦が佳山基地の地下格納庫の出口を攻撃する可能性がある。不思議なことに、中国がロシアから KIL0-636 潜水艦を購入した際に、ロシア製 3M-14E 型対地攻撃ミサイルは購入しなかった。これに対し台湾海軍の消息筋は、「中国海軍は潜水艦発射の YJ8-2 型艦対艦ミサイルを基礎に対地攻撃ミサイルを開発した可能性がある」と述べた。

第 2 は、これらの潜水艦の活動は、日中関係の悪化により中国海軍が尖閣群島/釣魚島海域に頻繁に出入りすることと密接な関係がある。

中国海軍潜水艦の潜航深度の問題に関して、ロシア軍事工業の権威筋は KDR に対し、「中国海軍は、国産潜水艦の潜航深度に問題があることを認識しているので、ロシア技術を導入することによって新時代のディーゼル潜水艦を開発しようとしている」と述べた。

しかし台湾海軍の専門家は、「台湾海峡東岸に出現した中国潜水艦の潜航深度は、すでに 300 M 或いは 400 M を超えている」と述べた。KDR はこれを疑問に思う。

台湾及びロシアの情報を総合して得た結論は、「中国潜水艦は、確かに台湾海峡東北岸での活動を大幅に強化している」ということだ。

以上